

セカンドスクールに向けて その 12 「ベスト・リビング・ビレッジの巻」

長野五輪以降、世界中から注目されることとなった白馬村では、人々の移動が活発となり、国内外からの移住者なども増加して、「村民の多様性」が特徴となっています。一方、インバウンド需要の増加も様々な方面に影響を与え、近年では「ラーメン一杯 3000 円」などという、尋常ならざる事態が表れるなど、さまざまな問題も生じてきています。



白馬村では、これまで、「GREEN WORK HAKUBA」プロジェクトの一環としての「HAKUBA CIRCULAR VISION」や、「白馬ゼロカーボンビジョン」といった、環境問題に対する内容を中心とした様々な施策を次々に打ち出してきました。そんな努力もあり、2023 年（令和 5 年）には国連世界観光機関の「Best Tourism Villages」に選定され、観光的な側面から高い評価を受けました。

白馬村では、このような流れを受け、さまざまな問題点にも前向きに立ち向かうため、2025 年に「白馬村第 6 次総合計画基本構想案」を策定しました。この計画では、「豊かさを育む」ことを理念に掲げ、自然の豊かさ、心の豊かさ、社会的な豊かさ、経済的な豊かさなど、それぞれの豊かさを育てていくことを行動指針として定めて、観光振興により地域住民の暮らしが豊かになる地域を実現し、「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」と「ベスト・リビング・ビレッジ」の両立を目指すというものになっています。



共に生き、豊かさを育む

支え合いと幸せがめぐる - Best Living Village -

これを基本理念とし、「将来にわたり美しく住みやすい白馬村であり続けるために、既存の村民やこれから移住してくる人、事業を営む方も含めて、白馬村に関わる全ての人々に理解を促し、世代や国籍、障がいの有無等にかかわらず、文化や言語の壁も超えて、白馬村を愛する人たちが共生する地域社会の実現を目指すための指針とする。」という方針を打ち出しています。

白馬村では、地域住民による共同作業や民宿文化が根付き、思いやり支え合う関係性や、白馬村を訪れる人々をあたたかく迎え入れるおもてなしの精神が大切にされてきました。セカンドスクールでは、このような思いをもった白馬村の方々に受け入れていただくことになります。そのなかで、普段の学校生活では体験できない学習活動から、よりよい人間関係の形成や、集団の一員としての責任ある行動・互いに協力し合うことの大切さを学ぶこと、地域の特性や課題について主体的に解決する力を養うことなどが求められます。単なる観光や、見分を広めるだけのものではなく、地域に溶け込み、お互いを尊重して、そしてお互いが成長できるような、そんな活動を展開することが目標です。

5 日間の生活で自他共にどこまで成長できるか、さあ、挑戦してみましょう！

